

平成29年産雑豆の収穫量と平成30年産 雑豆の作付指標面積について

(公財) 日本豆類協会

1 平成30年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、平成29年2月22日付けで「平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表しました。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介します。

(1) 小豆（乾燥子実）

①作付面積

小豆の作付面積は2万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（7%）増加した。これは、主産地である北海道において、いんげんからの転換等があったためである。

②10a当たり収量

小豆の10 a 当たり収量は235kgで、前年産に比べ70%上回った。これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、113%となった。

③収穫量

小豆の収穫量は5万3,400 t で、前年産に比べ2万3,900t（81%）増加した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の約9割を占めている。

(2) いんげん(乾燥子実)

①作付面積

いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16%）減少した。これは、主産地である北海道において、小豆等への転換等があったためである。

②10a当たり収量

いんげんの10 a 当たり収量は236kgで、前年産に比べ258%上回った。これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、136%となった。

③収穫量

いんげんの収穫量は1万6,900 tで、前年産に比べ1万1,300 t（199%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の大半を占めている。

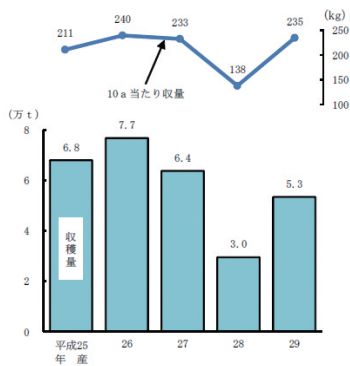


図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

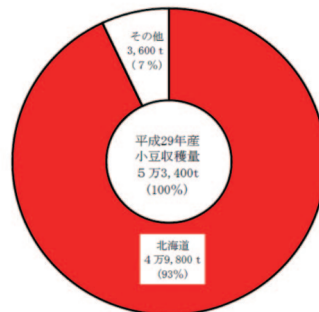


図2 平成29年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

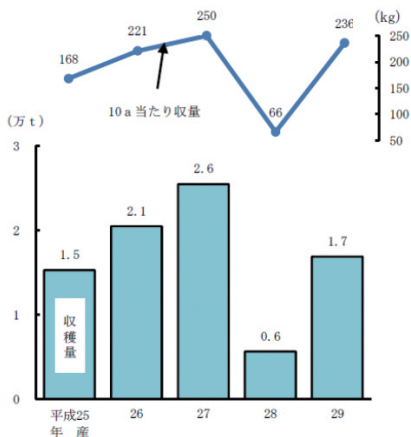


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

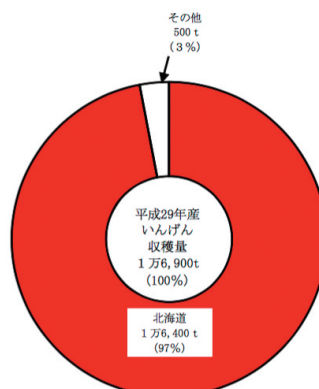


図4 平成29年産いんげんの都道府県別収穫量および割合

表1 平成29年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積(ha)	10a 当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量	10a 当たり 平均収量
				対差(ha)	対比(%)	対比(%)	対差(t)	対比(%)	対比(%)	(kg)
全国	22,700	235	53,400	1,400	107	170	23,900	181	113	208
うち北海道	17,900	278	49,800	1,700	110	166	22,700	184	116	242
滋賀	52	60	31	1	102	87	△4	89	78	77
京都	461	52	240	△32	94	100	△16	94	91	57
兵庫	690	70	483	△9	99	nc	nc	nc	89	79

表2 平成29年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積(ha)	10a 当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量	10a 当たり 平均収量
				対差(ha)	対比(%)	対比(%)	対差(t)	対比(%)	対比(%)	(kg)
全国	7,150	236	16,900	△1,410	84	358	11,300	299	136	173
うち北海道	6,630	248	16,400	△1,310	84	359	10,900	299	139	178
うち金時	5,070	240	12,200	△1,100	82	471	9,050	387	157	153
手亡	1,060	289	3,060	△140	88	217	1,460	191	128	226

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。

2 平成30年産雑豆の作付指標面積（北海道）

(1) 小豆類

北海道産小豆類の年間（平成28年10月～平成29年9月）の消費動向は、道産小豆固有の需要層に加えて、大手製パン等の輸入品主体の需要層が引き続き、道産小豆の使用を一定量継続したことから、前年度並みとなった見込みです。

平成29年産小豆類は前年産（16,200ha）よりは作付面積が増加したものの、作付指標（20,000ha）を下回る17,900haで公表されました。

一方作柄は、生育が天候推移に恵まれたことから収量は平年を上回る豊作となりましたが、年間消費量（平成29年10月～平成30年9月）が前年度並みとなった場合には、次期繰越数量が減少すると見込まれ、道産小豆類の需要に見合った生産を確保するため、平成30年産の作付指標面積は前年産より多い22,000haで決定されました。

(2) 手亡

平成29年産の生産状況は作付面積が1,060ha（公表）と作付指標（1,800ha）より大幅に

少なかったものの、好天により豊作となりました。また期末（平成29年9月末）繰越在庫が多かったことから、今年度（平成29年10月～平成30年9月）の需給は安定すると見込まれています。

しかしながら平成30年9月末には繰越数量が減少するため、次年度以降の需要に見合った生産を確保するため、平成30年産の作付指標は、2,000haで決定されました。

(3) 金時類

平成29年産の生産状況は面積が5,070ha（公表）と前年産（6,170ha）より減少したものの、好天に恵まれ豊作になった結果、今年度（平成29年10月～平成30年9月）の需給は安定すると見込まれています。

このため引き続き需要に見合った生産を確保するため、平成30年産の作付指標面積は、6,200haで決定されました。

表3 平成30年産雑豆作付指標（北海道）単位：ha

	平成29年産		平成30年産	29年産 作付面積対比
	指標面積	作付面積	指標面積	
小豆類	20,000	17,900	22,000	4,100
いんげん	手亡	1,800	1,060	940
	金時類	6,450	5,070	1,130
	その他	850	500	230
	計	9,100	6,630	8,930

注1) その他の内訳はうずら、大福、白花、紫花、虎豆等。

注2) 平成29年産作付実績は、農林水産省公表（平成29年10月24日）。